

- こうべ地域福祉ネットワーク事業 -



福祉的な課題は、予防から。
地域福祉ネットワークとは？

相談
無料

様子がおかしい、ちょっと迷惑…
 なんだか気になる人、
 ご近所にいませんか？



たとえば

- ずっと閉じこもっているみたい
- ゴミが家の外まであふれてる
- あまりにも生活が苦しそう
- 子どもが泣き続けている など…



／そんな時は／

おせっかいかも…なんて思わずに、
ひとりで抱え込まないで、
迷わずに相談してください。
地域の課題も、早めの予防が重要です。



※状況や条件等によって、共に取り組む内容は変化します。

▼
▼
▼

窓口まで行くことができない場合は、
地域福祉ネットワーク が訪問。
電話でのご相談も OK !

さらに電話で話をお聞きしたり、
地域福祉ネットワーカー が訪問し、
実際の状況を確認めます。

▼
▼
▼
ご相談内容に合わせて
解決に向けた対応策を検討し、
一緒に取り組んでいきます。

▼
▼
▼

地域のつながりを大切にしながら、
こんなことがあったら楽しいな、
「困った」から「よかった」へと
変えていく仕組みや場づくり、
仲間づくりをお手伝いします。

気づいたことや困りごとのご相談、お問い合わせは…

福) 神戸市西区社会福祉協議会

住所 神戸市西区糀台 5 丁目 4 番地の 1

電話 078-940-9501 (代表)

Email info24@nishiwel.or.jp

〈こういう場合〉は 迷わず、ご相談ください。

さまざまな問題は、時がたつと複雑になるもの。
困りごとのあるご本人やご家族はもちろん、
地域や近隣の方でもかまいません。
地域福祉ネットワークに、まずはお話しください。
解決に向かって共に考え、共に実行していきます。

Tさん家族（60代男性と80代の父親）の場合



相談時の課題

- ・父親が認知症に
- ・経済的に困窮
- ・仕事以外は無頓着

解決に向けた主な取り組み

- ・特別養護老人ホームに入所
- ・親子の世帯を分離
- ・支援の仕組みづくり

80代の父親と暮らすTさんは、親子で農業をいとなんでいました。父親に認知症の症状が現れ、農作業と介護に追われるTさんが食べることや片付けなども十分にできない中、父親が低体温症と意識障害で緊急入院。自宅はゴミの山となり、害虫が大量に発生し、石油ストーブによる失火の恐れがあるなど非常に危険な状態でした。

話を聞いていくうちに、収入が多い一方で支出の多さが目立ち、父親の年金を農業に補てんするなど経済的に苦しいことも判明。この親子が自立した日常生活を送れるように、仕事や介護関係者、民生委員、あんしんすこやかセンターなど関係機関が集まって、支援の内容や体制づくりに関する話し合いを行いました。

現在は、世帯を分離し、父親は特別養護老人ホームへの入所が決まって、おだやかに暮らしています。Tさんは父親の介護を施設に託せたことで農作業に専念できるようになり、気持ちに余裕が生まれた様子。まだ自宅の片付けが残っているものの、地域の見守りの目をつなぎ、親子が孤立しない仕組みをつくるきっかけとなりました。

Yさん（60代後半の单身男性）の場合



相談時の課題

- ・ゴミを分別できない
- ・ATMが使えない
- ・手助けを拒む

解決に向けた主な取り組み

- ・一緒にゴミを片付ける
- ・福祉サービスの利用を提案
- ・住民と多職種の連携支援

ゴミを分別せずに捨てたり、ATMでお金を引き出せなくて大声を出したり、訪問すると怒鳴ったり…いくら注意しても効果がなく、自治会をはじめ、Yさんの周囲の人々は困っていました。

一方、Yさんは「捨てると怒られる」ため、家中にゴミがたまって悪臭や害虫が…。地域福祉ネットワークが区役所のワーカーと共に何度も訪問してお話を聞くうちに、ずっと母親と暮らしていたYさんは家事やお金のやりくりをしたことがなく、ゴミの分別も「わからなかった」だけだと判明しました。

まず、自治会や民生委員、区のまちづくり課など多数の関係機関と共に、Yさんがごく普通に暮らせるように支援していくための会議を開催。協力しあって家中のゴミを片付け、ヘルパーや日常的金銭管理サービスの活用、介護保険の申請などを提案しました。

その後は、自治会の方が毎日訪問することで、Yさんとの信頼関係を構築。民生委員やヘルパーと協力しながら、現在も見守りは続いています。

Aさん家族（30代女性と中学生2人）の場合



相談時の課題

- ・子どもが不登校
- ・家の片付けができない
- ・体調がすぐれない

解決に向けた主な取り組み

- ・学習できる環境づくり
- ・家の片付け
- ・お母さんの居場所づくり

Aさんには中学生のお子さまが2人いて、1人で育てておられました。うつ病を発症し、仕事をするのもむずかしい状況でした。兄は不登校、妹は遅刻しながらも登校しているという状態。Aさんは体調がすぐれないため家事ができず、室内には衣類や物があふれていました。

地域福祉ネットワークが訪問を重ねて、まず生活状況を把握していきしました。家のことも子どものことも、自分でなんとかしたい気持ちがあるものの困難な状態でしたが、ひとつずつ現状を整理していくことで、まず何をするべきかを考えはじめることができるように。部屋をきれいにしたいという気持ちも芽生え、Aさんと子どもたちとで少しずつ片付けるようになりました。

不登校だった兄はもともと学習意欲が高かったため、学習の機会を提供したところ、改善に向かいはじめました。するとAさんは、兄が登校しはじめたことにより、自分と向き合う時間が持てるように。さらに、Aさんが好きなことに取り組めるような居場所がないか関係機関に協力を求めたところ、ボランティア活動につながって、現在活動中です。



1人を支え、 地域の支援につなげる。

個人的な悩みごとだと思っていたけど、
実は地域全体に関わる問題だった…というのは、
それほどめずらしいことではありません。
1人ひとりを支えることから広がる、
地域ぐるみの支援のカタチをご紹介します。

だれもが集える居場所をつくる

寂しさや生きづらさを感じていたり、地域で孤立していたり、だれかの役に立ちたい、つながりたいと思っていてもどうすればいいのかわからない、行動できない…という人のために、空き家や空き店舗などを活用し、だれでも気軽に立ち寄れる居場所をつくって地域の課題を解決していくのが、東灘ではじまった「えんがわプロジェクト」。

子育て世代、シニア男性、ボランティア活動をしたい方、すでに地域活動で活躍しておられる方などがサポーターとなり、できないことを助けたり、逆に助けられたり、ゆるやかに支え合う関係性を大切にしています。

生きがいを実感してだれもが輝き、個性を認め、手をさしのべ合える地域が増えたら、ステキです。今、お茶会や楽しいイベントを実施したりするなど、地域の課題を解決するきっかけとなるみんなの居場所があちこちに生まれています。

個人の課題

- ・学校に通いづらい
- ・働けない、仕事が続かない
- ・片付けられない
- ・認知症
- ・ひきこもり など

理想の姿＝地域の未来

- ・気にかけてくれる人、助けてくれる人ができた
- ・友達ができた
- ・役割、生きがいがあった
- ・自分を大切だと思う気持ちが生まれた
- ・仕事のトレーニングになっている など



くわしくは、
各区社会福祉協議会まで。